



「平和の尊さ新たに」

太平洋戦争から56年目の夏。8月6日、戦没者追悼式が英霊塔前で行われました。式には遺族ら100人が出席し、不戦と平和の尊さを新たにしました。

村遺族会中野ミヨ会長が「激動の昭和が終わってから、13年目になります。悲慘な戦争は原子爆弾投下で終わりを告げました。今、平和と自由を守り世界平和を祈ります」と追悼の言葉をのべたのに続き、参列者全員が参拝し、犠牲者100人の冥福を祈りました(写真)。

八月三十日、鳥茂渡小学校(菅原伊保校長・児童十八人)の四、六年生(十一人)が昨年に続いて、茂市の野口幹夫さん(四七)のハウスで「百合の植え付け体験」を行いました。

「百合はベルガモを植えました」

野口さんは三種類の百合を栽培していますが、きょうは「ベルガモ」という品種、二千球の植え付けを指導してくださいました(写真)。

今年は、収穫体験学習も予定していて、十二月の寒い時期に花を付けるとい百合を、子どもたちは今から心待ちにしています。

体験は二度目という金子由希さん(六年)は、「楽しい体験でした」と笑顔いっぱい語ってくれました。



雨でも楽しんだよ！ 「夏まつり」

8月3日、村特別養護老人ホーム「うねとり荘」(野崎貞信施設長、入所者数50人)で夏祭りが行われました。

あいにくの雨模様で会場は急きょ施設内に変更となりましたが、入所者の家族や関係者などたくさんの人々が訪れ夏祭りを楽しみました。金魚すくいやゲームコーナーなどに協力した中高生のボランティアも、雨の中大活躍。舞台では、鳥居地区中高生らで組織するうねとり鵜鳥神楽を披露、夏祭りを盛り上げました。



豪華景品で最後をしめくくったのはなんと盆踊りです。太鼓の音とともに、ボランティアの人たちに助けられながら輪の中に加わり、手拍子などとりながら、楽しいひとときを過ごしたようです(写真)。